



青き楓

島高だより
平成21年11月号
(通巻第44号)
長崎県立島原高等学校
編集：情報図書部

校長室から

「私立大入試も年々格差拡大の傾向あり」



校長 辰田幸敏

18歳人口の減少と生き残りをかけた私立大の学部・学科改編、増設等が加速化する中、入学者確保が困難になった5大学が22年度入試から募集停止を決定した。ある調査によると、今春入試における私立大の定員割れは全体で46.5%であり、小規模、地方、単科、新設のいわゆる「小・地・単・新」型大学で占められていると言う。近年の厳しい私立大入試戦線は東京・京都・大阪などの一部の伝統校、有名校中心と言えるようだ。

18歳人口がピークだった平成4年と今春入試について比較すると、次のようになる。

- ① 18歳人口：1,212,499人(2,049,471人) ② 大学進学率：50.2%(26.4%)
- ③ 私立大合計：595校(384校) ④ 私立大志願者数：3,075,396人(4,452,054人)
- ⑤ 大学等入学実現率：92.7%(65.5%) ⑥ 私立大定員非充足率：46.5%(7.1%)
- ⑦ 志願者数ランキング 20大学占有率：42.3%(33.0%) * ()は平成4年

20年ぐらい前までと比べると私立大入試は一般に易しくなったが、早稲田、慶応、同志社など一部の有名私立大では志願者もあまり減少しておらず、依然として厳しい入試が続いている。5月の全国校長会で出張の折、早稲田、慶応、青学の入試事務課を訪問したが、さすがに全国から多くの受験者を集めているだけに担当者の説明もかなり強気で、学生も明るくエネルギッシュでキャンパスが活気にあふれていた。

12月の主な行事予定

- 1日(火)～3日(木) 期末考査(1・2年)
(11月30日～)
- 5日(土) 土曜講座・小論文模試(1・2年)
- 5日(土)～6日(日) 対外模試(3年)
- 7日(月) 代休(2年)
- 8日(火)～12日(土) 修学旅行(2年)
- 10日(木) 地域清掃ボランティア活動
乳幼児ふれあい体験(1年)
- 10日(木)～18日(金) 三者面談期間(3年)
- 12日(土) 土曜講座(1・3年)
- 19日(土) 県一斉実力(1・2年)
土曜講座(3年)
- 21日(月)～25(金) 三者面談期間(1・2年)
- 24日(木) 終業式・3年生激励会
- 25日(金) 授業設定日
- 26日(土)～27日(日) 冬季補習(全学年)
- 28日(月) 授業設定日
- 29日(火)～30日(水) 代ゼミプレテスト(3年)

絵画寄贈

本校第21回卒で別府市を中心に画家として活動されていた故・池上栄邦先生の奥様より、11月20日(金)、絵画「ユートピア」を寄贈していただきました。



校長室で寄贈式が行われ、最初に奥様よりご挨拶をいただきました。その中で、「主人は、いろんな場所で自己紹介をする際、必ず『私は島原高校卒業である。』と話していました。」と、先生が島高を大変誇りにされていたという、エピソードをお話されました。

その後、校長室前で除幕式を行い、画「ユートピア」のお披露目がありました。

「心に響く人生の達人セミナー」 11月9日(月) 青楓アリーナ

<演題> 「守・破・離」 <講師> 諫早市図書館長 平田徳男 先生

大半の生徒は、「守・破・離」というあまり聞き慣れない演題に興味を抱きつつ、先生のお話を聞いていたようです。まず、「この世に一人しかいない私」から始まった先生のお話は、何でも吸収し自己を高めるための糧にしようという島高生にとって、素晴らしいセミナーとなったようです。生徒の感想文には、「この世に生まれた奇跡…しっかり生きていかなければならない」「感謝と責任」「親友」「チャレンジ」「本物は続く、続ければ本物になる」など、それぞれに感じたことを素直に書いていました。一人ひとりが、これからの高校生活と、長い人生を逞しく生きていく上での貴重な示唆を得たようです。また、質疑応答では、生徒の質問に対して、分かりやすく適切な先生のお話ぶりは、島高生への温かいメッセージが伝わってくるものでした。



平田徳男 先生



積極的な質問



多数の保護者



花束贈呈

人権同和教育

【研修部 豊 正路】

去る11月11日(水)LHRの時間に人権同和教育を実施しました。今年度は「同和問題」に焦点を当て、ビデオ「芽吹き」を上映鑑賞し、同和問題の歴史の変遷と考察に関する紹介資料を提示しました。現在でも全てが解消された状況とはいええない中、わたしたち自身の課題として、互いの人権が尊重される明るい社会を実現させるためにできることは何かを考える大切なきっかけとなったのでは、と思います。

【生徒感想】

・身近な実感はわかりませんが、本当に理不尽な理由で差別を受けている人が今もいるとすれば、絶対にあってはならないことだと思います。人任せにせず、他人事とは思わず、他者を重んじる心を常に持ち続けたいと改めて感じました。(1年女子)

・それぞれの人にはその人なりの個性があるのだから、身分や地域という色めがねをかけてその人を見るのではなく、自分の目でその人個人を見ることが出来る人間になれるとよいのではないのでしょうか。(2年男子)

・今回の同和教育で今でもこのような差別があることを知り、大変驚いたと同時に、現状を正しく理解することの大切を学びました。進学・就職後にこのような場面に出会ったとき、自分から「だめだ!」と言える人間になりたいです。(3年男子)



新着任者紹介



小川先生の産休代替としてお迎えしました。

○井上 里沙
(いのうえ りさ) 先生

- ① 教科 国語
- ② 趣味・特技 読書 バドミントン

2学期も後半からですがよろしく願います。

郷土愛

ボランティア活動

小学校・高校連携地域清掃

働く喜び 協力する楽しさ

【保健美化部 西門 耕二】

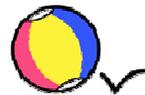
11月20日木曜日、午後の時間帯を使って第一小学校と合同で地域清掃ボランティア活動を実施した。本校2年生と第一小学校の4・5年生が合同の小グループに分かれ、小学校校区内の市街地を中心にした清掃活動を行った。

小学校との連携活動は昨年度2月に続いての試みであった。天候が心配されたが時々日も差す穏やかな天候となり、おおむね楽しく活動ができたようである。活動終了後小学校の校庭に戻ってきてグループ毎に解散となったが、中にはいつまでもおしゃべりを続けて別れがたそうにしているグループもあった。

生徒会常任委員・美化委員がゴミの分別作業を行った結果、最終的に30袋ほどのゴミが収集できた。実施時期、清掃担当区域の配分など課題も残ったが、活動全体としては成功したのではないだろうか。



部活動の主な成績



○レスリング部

長崎県高等学校新人体育大会

- 団体戦 **優勝**
- 個人戦 **優勝** 50kg級 伊藤 優
- 優勝** 55kg級 原田 駿
- 優勝** 74kg級 稲田 貴
- 準優勝** 60kg級 草野 隆大
- 準優勝** 66kg級 松本 喜朗
- 準優勝** 96kg級 上田 大翔
- 第3位 60kg級 堀内 郁実
- 第3位 66kg級 岩永 和樹
- 第3位 84kg級 永尾 貴幸

○剣道部男子

長崎県高等学校新人体育大会 兼九州選抜予選

- 団体戦 **優勝** (7年連続)
- 個人戦 **優勝** 入江 洋平
- 第5位 本多 弘幸

○剣道部女子

長崎県高等学校新人体育大会 兼九州選抜予選

- 団体戦 **優勝** (7年ぶり)
- 個人戦 **準優勝** 馬場 亜侑美
- 第5位 増田 雅

○体操部

長崎県高等学校新人体育大会

- 女子団体総合 第3位

○弓道部

第17回九州高等学校弓道新人選手権大会

- 男子個人 第4位 森川 善史

○美術部

長崎県高等学校総合文化祭美術展

- 絵画部門 優秀賞 坂田 仁美 山本 遙
- 吉田 美智 石橋 雅子
- 優良賞 鬼塚 幸大 石橋香央里
- 亀本すみれ 福井 美咲

※ **優秀賞の坂田仁美は平成22年度全国高等学校総合文化祭に選出**

○写真部

長崎県高等学校総合文化祭 第21回県央支部合同写真展

- 優秀賞 作品名「師」 濱崎 千怜
- 優良賞 作品名「たからもの」 下田ひらり

○その他

- 「税についての作文」
- 島原税務署長賞 佐用 菜穂
- 長崎県央振興局長賞 平山 奈緒

理数科の活動



楽しい!面白い!

SPP 今年も充実!

【理数科担当 片山 泰成】

本校理数科の活動の中心であるSPP (Science Partnership Project) を今年も1年生の理数科で実施しています。

今年は「島原半島の水辺の環境を科学する」というテーマのもと、10月14日(水)を皮切りに、1月29日までの全4回にわたり連携機関(長崎大学、長崎県環境保健研究センター)での実験・実習を実施しているところです。現在、3回目の実習まで終了していますので、その様子をご紹介します。

SPP①(10月14日)「硬骨魚類の頭部骨格標本作り」



第1回目の内容は「近海に生息する硬骨魚類の体の構造について学習する」というものでした。早朝補習後、バスで長崎大学まで行き、水産学部の橋本 惇教授に硬骨魚類の体の構造の特徴等についての説明を受けたあと、キダイ(連子ダイ)頭部の骨格標本作りに入りました。頭だけでも40を超える骨があり、名前を確認しながらその骨を捜すのはとても大変でした。最後は取り出した骨を画用紙に貼り付け、何とか作りあげることができました。鯛の骨の中に「鯛中鯛(たいのたい)」と呼ばれる鯛の形をした骨があり、縁起がいいものであるということを知ったのも収穫でした。

【生徒感想】

- ・解剖してみると、失くしてしまいそうなほど小さな骨ばかりで全ての骨を見つけ出すのはすごく大変でした。
- ・すごく根気のいる作業で難しかったけど、それ以上にすごく楽しかったです。

SPP②(10月27日)「化学的な水質判定法」



第2回目は、水質について化学的に判定する方法について学ぶという講義でした。長崎大学水産学部の北村 等先生を講師に招き、講義をしていただきました。生物が化学物質を通じて環境とコミュニケーションをとっているという話はとても興味深い内容で、生徒も熱心に耳を傾けていました。講義後の質疑応答もたくさんの質問が出て、有意義なものとなりました。

【生徒感想】

- ・知らなかったことばかりで面白かったです。自分の中で別々にあった事柄がリンクして世界が広がったような気がしました。
- ・水生生物の物の見分け方が「匂い」ということにとっても驚きました。

SPP③(11月5日)「化学的な水質判定法」



第1回目同様、早朝補習後、長崎大学まで行き、「アルカリ法によるCOD測定実験」について学習してきました。CODとは化学的酸素要求量といわれ、汚れの成分(有機物)が多いほどCODの値が高くなります。このCODを測定する実験方法についての実習をしました。最初はとまどう場面もありましたが、大学生の協力を得ながら溶液調製から始めました。溶液が完成したあとは、大学の池の水を採取し、その水と海水のCODの値を測定しました。

【生徒感想】

- ・化学と自然とが関連していて、化学が身近なところで役立っているようで楽しかった。
- ・実験中は試薬の色が緑になったり黄色になったり、本当に不思議でワクワクしっぱなしでした。化学の力ってスゴイ!と再認識しました。